

跳人（ハネト）概要

ハネト（祭の踊り手）はねぶた祭を盛り上げ、観衆を沸き立たせる、一種のチアリーダーのような存在です。「ハネト」という名称はジャンプしたりバウンドしたりすることを意味する「跳ねる」という語に由来しています。ねぶたにおいてこの語は2つの意味を持ちます。まずは踊り手の活発な動き、そして悪運を跳ね飛ばすという2つの意味が重ねられています。ねぶたの各実行委員会は専属のハネトチームを持っており、最大のものは2,000名に近い参加者がいます。ハネトは観衆の前を通り過ぎながら「ラッセラー」と囃し立てます。これは観衆に参加を促し、一緒に楽しもうと呼びかける意味があります。囃子方の太鼓のリズムに合わせて、ハネトのリーダーがメガホンやマイクを使い大音声で音頭を取り、他のハネトが大声でかけ声を繰り返します。

ハネトには正式な装束があります。白地の浴衣（夏季用の軽装の着物）にピンクやブルーの派手なタスキを合わせます。装束や履物、鉢巻きに鈴を結び、できるだけ賑やかな音が鳴るようにします。ハネトは時としてジグのような踊りを披露することもあります。全てはリーダーやその集団の方針によって決まります。山車の先導役と同様、ハネトのリーダーも笛を吹いてハネトに指示を出します。一斉に踊ったり、走ったり、飛び跳ねたりといった動きを取るようハネトに伝えます。正式な装束を着ている人であれば、誰でもハネトとして祭に参加できます。山車を間近で見たり、祭が刻々と進行していくさまを眺めたりしたいのであれば、実際に参加してしまうのが一番です。